

「存在レベルの交感」(法人事業2をめぐる)

昨年暮れの12月23日(金)の午後、長野県動物愛護センター(通称ハローアニマル)の会議室をお借りして「東信子ども・若者サポートネット令和3年度全体調整会議」を直接会議方式で無事に開催することができました。「東信子ども・若者サポートネット」は長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課による委託事業ですが、昨年度末の法人理事会や社員総会でご紹介した通り、昨年4月から一般社団法人ふれジョブで受託しています。

長野県小諸市に置かれた事務所を中心に、法人の掲げる事業のひとつである「生きづらさのある人の存在支援」に則って、日頃この事業を運営しています。

会議では、県から求められている「子ども・若者のための『居場所』の運営」について、ふれジョブが大切にしている理念を踏まえた私たちならではの営みをご報告しました。

それは、会場でもある長野県動物愛護センター(以下ハローアニマルと表記)と数年間の信頼関係から生まれた、新しい視点による「居場所づくり」です。

ハローアニマルの事業である「動物を介在した子供達への支援」と私たちの個別面談とのマッチングにより、アニマルセラピーとカウンセリングを組み合わせた「親と子の居場所」を模索しているのです。

通常、「居場所」はその利用者を子ども、若者、障害者、高齢者などの「属性」によって区別することが多いのですが、これは運営する側の属性に規定されることも大きいのです。私たちの居場所では、動物と一緒にいることにより、お互いを「属性」で捉える必要がなく、「犬が大好きな A 君」や「猫に好かれる B さん」という一人の人間でいられます。

1時間、子どもたちが膝に動物を乗せて、ほとんど言葉を発することもなくスキンシップだけで時間を過ごす場。ここに、ふれジョブが大切にしている言葉を越えた『存在レベルの交感』があります。大切なのは、私たちが計画しなくても、『場』が何かを生み出すという出来事。ここにこそ、子どもや若者、彼ら彼女らにかかわる私たちが『自分らしい時間』を過ごせる「居場所」の包容力が蓄積されます。

ふれジョブが生まれるきっかけになった最重度の少女ともかちゃんは、病棟のベッドにからだを横たえるだけの横臥者(おうがしゃ)でしたが、その植物的とも言える存在の力が彼女にかかわった人間を変えてしまいました。

私たち一般社団法人ふれジョブの営む居場所も、支援する人／される人といった関係性を離れて、お互いが補いあえるたいらな関係性を大切にしたいと考えています。

「東信子ども・若者サポートネット」に託されているのは、さまざまな困難な課題の只中に置かれた子どもや若者、そして家族や関係者を結び合わせる仕事です。私たちには、市民活動としての「ふれジョブ」を含んだ、より広範なミッション(使命)が問われています。